

第3回 八代港被災施設復旧技術検討委員会 議事概要

1. 日 時：令和8年9月16日（水）14時00分～16時00分

2. 場 所：ホテル大黒屋（熊本県八代市麦島西町 7-15）
Web 併用

3. 議事概要

第2回委員会の意見に対する対応、復旧の基本的な考え方及び八代港復旧設計方針（案）について説明し、意見交換を行った。出された意見を踏まえた修正を行った上、八代港復旧設計方針をとりまとめ、公表することです承された。

（主な意見）

- 概ね2年以内の復旧完了を目指すにあたり、港湾機能の維持に配慮するほか、再度災害の防止等、その内容や目指す姿などについて、十分な検討が必要である。
- 復旧を早期に進める上で、設計コンサルタント、施工業者や作業船関連の会社など、様々な業界が協力して復旧を進めていく体制を構築することが重要である。また、プレキャストの活用など工期を短縮できる工法の検討も重要である。
- 再度災害防止の観点からコンテナターミナルの耐震化の検討は重要である。検討にあたっては、地震後どのような使い方をするか、利用者へのヒアリング等などを通じてシナリオを想定したうえで要求性能を整理すべきである。なお、岸壁の耐震化だけでなく、クレーンやヤードなどの耐震化の検討も必要である。
- 連続バースの復旧設計にあたっては、隣接施設の構造の違いや被災状況、各施設に要求される耐震性能の違いに配慮して行う必要がある。また、岸壁を地震前の天端に復旧するにあたっては、適切に設定することが重要である。
- 「復旧の基本的な考え方」について、利用者への配慮を示す項目を先に記載するなど記載順序を整理すべき。
- 本日の委員会をもって復旧技術検討委員会は終了とし、今回の議論を踏まえた修正を行った上、八代港復旧設計方針を取りまとめ、9月中に公表する。